

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部 発行：会長 田中勇次郎

訪問作業療法

～ルーツを語り未来に繋ぐ～

東京都作業療法士会（以下、都士会）設立40周年の節目に寄稿の機会を頂いた。私は清瀬リハ学（通称）を卒業後、福祉領域7年、米国留学1.5年、専門学校教育7年、急性期臨床3年、大学教育31年を経て、現在は訪問リハビリテーション（以下、訪リハ）領域で、研究活動のサポートをしている。職歴約54年の作業療法士（以下、OT士）である。

都士会には設立時に入会し、第1回・第7回学会長や卒後教育研修を何回か担当させて頂いた。

ここでは、今携わっている訪リハ・作業療法（以下、OT）について、自身の体験を語ることが職歴を重ねた者の役割であり、さらなる発展に繋げて欲しいがためである。

さて、都士会員に聞く（“チョコちゃんに叱られる”風）！OT士が都内で初めて訪問によるOTを行ったのはいつ頃？

都士会員約2,700名（HP会長挨拶文2020）の6割が20代後半から30代半ば（白書2015から推計）とすれば、知らなくとも無べなるかな。答えは1970年。

我が国にリハビリテーションの思想や技術が欧米から導入された1960年代当時、障害児・者や家族は入所施設を切望していた。折しも高度成長期に向かう行政の目玉施策として、沢山の大規模施設が建設された。しかし、次第に施設暮らしへの疑問や不満が生じ、地域で普通に暮らしたいとの希求が高まっていた。

その様な障害当事者らの地域生活へのニーズに対

し、故・美濃部亮吉都知事は新宿に心身障害者福祉センターを建て、福祉施策としての訪リハを開始した。私が初めて障害者宅を訪問したのは1971年である。当時のOTは手の先生と呼ばれ、動作としてのADL自立を目標に、作業（手工芸）や自助具、スプリント作成や義手訓練は得意でも、在宅障害者の生活行為自立に応える術もテキストも無く、試行錯誤していた。

つまり、訪リハOTのルーツは、介護保険制度（2000）やWHOのICIDHからICFへモデルシフト（2001）する約30年前に遡ることになる。

ところで、私は一昨年訪リハ3職種の意識調査（未刊行）に関わった。結果、訪リハ制度の狭間で、活動や参加の支援にジレンマを抱えるOT士が多い傾向にある事が明らかとなった。しかしAI（人工知能）やロボットの研究（濱口2021）によれば、上肢機能は下肢より練習継続が必要で改善が見込めるとされ、訪リハOTでもビッグデータの分析に基づく個に応じた科学的な上肢機能回復練習も必要となろう。

今後さらに入院期間が短くなることを考えれば、訪リハOT士は活動と参加に拘ることなく回復期OT士と連携して機能回復から社会参加まで広く本領を発揮してこそである。



(株)東京リハビリテーションサービス顧問
東京都立大学名誉教授
日本職業リハビリテーション学会名誉会員
菊池恵美子

CONTENTS

- ◆訪問作業療法～ルーツを語り未来に繋ぐ～…①
- ◆令和4年度 第14回 定時社員総会報告…②
- ◆令和4年度診療報酬改定の概要（精神医療）…③
- ◆第18回東京都作業療法学会のご報告…④
- ◆教育部からのお知らせ…⑤
- ◆認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告…⑥
- ◆認知症にやさしい本の紹介 Vol.33…⑥
- ◆福祉用具部から動画配信のお知らせ…⑦
- ◆子ども委員会活動報告…⑦
- ◆車いすでの街歩きを通して、地域の移動支援を地域か

- ら発信する「ウィーログフレンズ 全国一斉車いす街歩き 2022初夏」への参加…⑧
- ◆オンライン就労支援事例検討会の報告とお知らせ…⑧
- ◆Vol. 6 OT協会の災害対策室の活動・役割と士会との関わりについて…⑨
- ◆ブロック活動のお知らせ…⑩
- ◆自治体職員や包括支援センター職員に向けて作業療法を紹介しました！～作業療法士の紹介動画 無料公開のお知らせ～…⑫
- ◆編集後記…⑫

令和4年度 第14回 定時社員総会報告

事務局長 中里 武史

令和4年6月25日（土）東京都作業療法士会の事務所にて、令和4年度 東京都作業療法士会 定時社員総会を開催いたしました。

今年度も昨年と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から代議員や役員の出席を極力控え、事前にいただいた委任状、および書面表決書をもとにZOOMにて理事、監事と共に執り行わせていただきました。

総会においては33名の代議員の出席者、委任状および書面表決書提出者合わせて33名が有効数となりました。

今回の総会では令和3年度の事業報告、令和4年度の事業計画と共に、第4号議案「名誉会員の承認」にて本邦初の若年性認知症の就労型社会参加事業の推進等で東京都の作業療法士の社会的地位向上に多大にご貢献いただきました比留間ちづ子氏が名誉会員として承認され、第5号議案では「役員選挙」について決議を行い、今年度のすべての議案が承認されました。

総会議案書はホームページにも掲載しておりますので、ご参照いただけますと幸いです。

令和3年度については、新型コロナウイルスの多大な影響がある中で、会員の皆様からの会費納入率は8割を越える高いものとなりました。一方で新入会については減少傾向となっており、組織率の向上が課題となっております。引き続き、さまざまな制限がある中ではありますが、様々な依頼に対応し作業療法の発展に向けた活動や事業に取り組んで参る所存です。

今後とも東京都作業療法士会の事業にご理解、ご支援くださいますようどうぞ宜しくお願い致します。

●令和4年度 名誉会員 比留間ちづ子氏

●東京都作業療法士会 令和4年度役員 ()は所属先名称

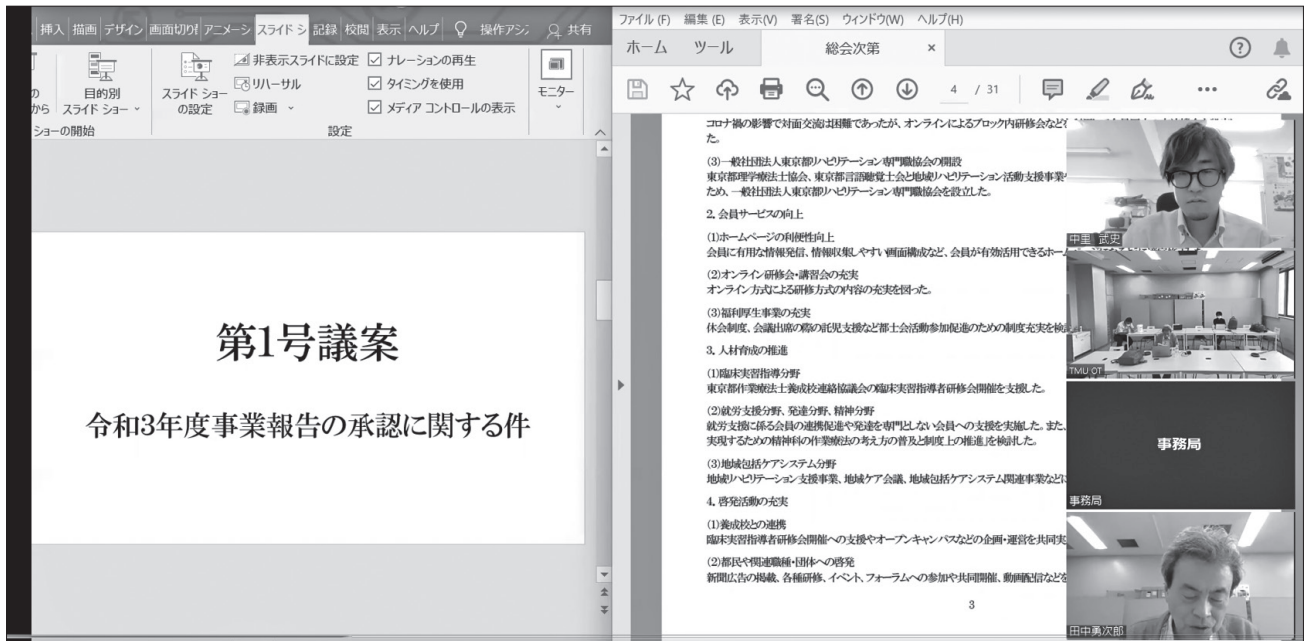
会長 田中勇次郎（フリーランス）

副会長 小林法一（東京都立大学）、林義巳（多摩リハビリテーション学院専門学校）、
三沢幸史（フリーランス）

理事 粟沢広之（大久野病院）、池上洋（東京都立小児総合医療センター）、
伊藤祐子（東京都立大学）、猪股英輔（東京保健医療専門職大学）、
宇佐美好洋（帝京平成大学）、大村隼人（荏原病院）、紙田緑（府中刑務所）、
楠本直紀（台東区立台東病院）、齊藤洸太（中野区役所）、谷村厚子（東京都立大学）、
松岡耕史（多摩丘陵病院）、山下高介（日本リハビリテーション専門学校）

監事 酒井康年（うめだ・あけぼの学園）、清水順市（東京家政大学）

※順番は五十音順



令和4年度診療報酬改定の概要（精神医療）

保険部 野口 僚子

前回に続き診療報酬改定についてお伝えします。今回は精神医療に関わる内容です。詳しくは以下をご覧ください。厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/12400000/000912335.pdf>

1. 依存症患者に対する医療の充実
 - ・依存症入院医療の充実：重度アルコール依存症入院医療管理加算を依存症入院医療管理加算に名称変更し、入院治療が必要な薬物依存症の患者を対象に追加
 - ・依存症外来医療の充実：依存症集団療法にアルコール依存症の患者に対する集団療法の実施に係る評価を新設
2. 精神科医療救急医療体制の整備の推進
 - ・精神科救急医療に係る入院についての評価の見直し：精神科救急・急性期医療における役割に応じた評価体系とする
 - ・精神科救急・合併症入院料の見直し：各種疾患別リハ料や精神科身体合併症管理加算などを包括評価の範囲から除外
3. 精神疾患を有する者の地域定着に向けた多職種による支援の評価
 - ・療養生活継続支援加算の導入：精神科外来への通院および重点的な支援を要する患者に対し、多職種による包括的支援マネジメントに基づいた相談・支援等に対する評価
 - ・児童思春期精神科専門管理加算の見直し：児童・思春期精神医療の外来診療について、2年以上診療が継続している場合についても算定できるよう見直す
4. 継続的な精神医療の提供を要するものに対する訪問支援の充実
 - ・精神科在宅患者支援管理料の見直し：ひきこもり状態にある患者や精神疾患の未治療者・医療中断者などを対象患者に追加

第18回東京都作業療法学会のご報告

Change Chance Challenge 3つのC ～作業療法のいま・これから～

大 会 長：三沢幸史（東京都作業療法士会副会長）

実行委員長：粟沢広之（東京都作業療法士会理事・大久野病院）

開催ブロック：西多摩・南多摩ブロック

皆様、この度は第18回東京都作業療法学会に多数のご参加ありがとうございました。

今回の学会ではテーマをChange Chance Challenge 3つのC～作業療法のいま・これから～と題し、それぞれの地域で展開している独自の取り組みを公募という形で広く募りました。公募演題は4題が集まり、それぞれとても興味深い取り組みをなされ充実した内容でした。

また、今年度は都士会発足40周年ということで、学会でも40周年企画として田中勇次郎会長、杉原素子先生、寺山久美子先生、三沢幸史学会長に対談・ご講演を依頼し今学会のテーマにも通じる大変有意義なお話を聞くことが出来ました。

都士会各部・委員会の皆様におかれましても貴重なご発表、ご報告ありがとうございました。

改めて、今回発表して頂いた先生方、参加して頂いた皆様、今学会に関わったすべての皆様ありがとうございました！

・オンデマンド配信のお知らせ

今学会に参加登録された方は学会内容をオンデマンド配信にてご視聴いただけます。視聴は東京都作業療法士会の学会ホームページからできます。詳しくはホームページをご確認下さい。

なお、配信は7月一杯を予定しております。ぜひご視聴下さい。

第18回東京都作業療法学会 事務局 occupational.therapy.tokyo@gmail.com

教育部からのお知らせ

現職者選択研修（発達障害領域の作業療法）

開催日時：2022年7月31日（日）9：00～16：10

講義名・講師

発達障害領域の基礎知識と作業療法の課題と展望：伊藤祐子先生（東京都立大学）

自閉症スペクトラム障害児に対する作業療法の実際：伊藤祐子先生（東京都立大学）

作業療法の実際①（0歳～就学前）：酒井康年先生（うめだ・あけぼの学園）

作業療法の実際②（就学・学童期・青年期以降）：酒井康年先生（うめだ・あけぼの学園）

現職者選択研修（精神障害領域の作業療法）

開催日時：2022年8月28日（日）9：00～16：10

講義名・講師

精神障害作業療法の基礎知識：佐々木剛先生（茨城県立医療大学）

精神障害作業療法の展開方法：加藤駿一先生（首都医校）

精神障害作業療法の実践：山下高介先生（日本リハビリテーション専門学校）

精神障害作業療法関連のトピックス：佐藤俊之先生（東京リワークセンター）

現職者基礎研修

開催日時：9月3日（土）18：30～20：00

テーマ「身体障害領域で働く先輩作業療法士3名からの症例報告会～入院から退院後の生活を見据えた支援～」

講師（所属・病期）

吉澤卓馬先生（順天堂大学医学部附属順天堂医院・急性期）

大瀧直人先生（いずみ記念病院・回復期）

神代利江先生（ビコー訪問看護リハビリステーション板橋・生活期）

現職者選択研修（身体障害領域の作業療法）

開催日時：2022年11月5日（土）9：00～16：10

講義名・講師

身体障害領域の基礎知識：中本久之先生（帝京平成大学）

急性期の作業療法：阿瀬寛幸先生（順天堂大学医学部附属順天堂医院）

回復期の作業療法：清水竜太先生（永生病院）

生活期・維持期の作業療法：神代利江先生（ビコー訪問看護リハビリステーション板橋）

* 詳細・お申し込みは都士会HPをご確認ください。

認知症の人と家族の生活支援委員会 活動報告

認知症の人と家族の生活支援委員会 野本 潤矢

今年も早くも半ばを過ぎました。そろそろ梅雨が終わる頃でしょうか。

認知症の人と家族の生活支援委員会では、今年の2月に区東部東北ブロックにて、第5回認知症アップデート研修を開催いたしました。今回は通常の講義に加えて、後半にグループワークでの事例検討会を行いました。臨床現場の症例を通して、全体像の捉え方や介入方法などを中心に議論を行うことができ、大変実りのある研修でした。区東部東北ブロックのみなさまありがとうございました。また、当委員会では毎年開催しているアップデート研修に加えて、下半期に認知症関連の研修会の開催を予定しております。詳細は未定ですが、みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

7月の東京都作業療法学会においては、当委員会の委員が、このコロナ禍で見ついたり、考えたりした【認知症×作業療法なこと】をいくつかご紹介しました。制度や地域、研究といった分野からの情報を提供し参加者を交えてディスカッションを行いました。

最後になりますが、当委員会では新規委員を募集しております。活動内容は、認知症に関する研修会の運営やさまざまな分野で認知症の人や家族に関わりを持っている委員同士での勉強会、都民向けブログの執筆などです。ご興味のある方は、以下のメールにお問い合わせください。

お問い合わせ先：ot.dementia@gmail.com

認知症にやさしい本の紹介 Vol.33

川崎市立教育委員会 川崎市立宮前図書館 館長 舟田 彰

記憶とつなぐ～若年性認知症と向き合う私たちのこと～

下坂厚・下坂佳子/著者 双葉社/出版社

若年性認知症の当事者の方やそのご家族の書かれた本は年に数冊出版され、考えさせられたり、仕事や個人的な学びにも参考になる。今回紹介する本は、著者とほぼ一年前にzoomでお話をする機会があり、どのようなことを書かれたのか気になっていた。認知症当事者のご本人とパートナー、ご夫婦としての共著。お互いが認知症について振り返り、その時々感じたことを素直に、そして、シンプルに文書として表現している。認知症と診断されたことで、複雑な心境とそして、前向きになれたことなど、ご本人は綴っている。一方、パートナーの女性はその時にどう感じていたのかが、微妙に異なっていたりするところもある。しかし、全体を通してとても素敵なお夫婦だと感じてしまう。認知症当事者からの発言に、ハッとさせられるところもある。「認知症にやさしい・・・」という言葉があるが結局は行政の施策に当事者がいないこと＝「寄り添っていない」ことになるということに関して、行政マンとしては強く突き刺さった。そして「本などに書いてある認知症当事者の扱い方をうのみにするのではなく、まず、目の前の当事者としっかり対話をしてみることを心がけて・・・」という文書も再度図書館員として、自認する必要があると感じた。本の冒頭に、ご自身で撮影した写真がとても素敵であり、ホッとする。著者の人柄が写真から感じた。

福祉用具部から動画配信のお知らせ

(6月12日研修内容「メーカーさんから教わる選定ポイント」)

6月12日に感染予防に配慮しながら福祉用具部主催の対面型研修「居室～玄関・アプローチ編」を開催致しました。メーカーさん9社（ホクメイ、モルテン、アロン化成、矢崎化工、パナソニック、シコク、モリトー、新光産業、アサヒケアサポート）の方に、商品の説明、選定ポイントや実際の事例紹介と実機体験することで、明日から現場で活用できる内容となりました。今回、「研修に参加したいが、感染のリスクから研修に参加できない。動画での配信が出来ないか？」などの問い合わせが多数ありました。福祉用具部で検討し研修内容のポイントを動画配信致します。

視聴の流れ

tokyo.ot.yougu@gmail.comへ件名【動画視聴希望】として①氏名 ②協会会員番号を記載してメールを送る
→ 会員情報を確認後パスワードをお知らせ

※視聴は、12月28日まで可能です。



子ども委員会活動報告

子ども委員会 八重樫貴之

今年度の子ども委員会の活動として、7月10日に行われた第18回東京都作業療法学会に教育部とコラボレーションしたセッションを企画いたしました。『地域で働く発達 OT「いま」と「これから』』というテーマで、教育部発達チームと子ども委員会の委員が「つながり」をそれぞれの立場から話題提供を行い、さらに医療機関と発達障害児向けの塾に勤務している子ども委員会の委員による指定討論をお送りしました。小児・発達領域の「地域」では、幼稚園保育園各種学校だけでなく、学童保育や児童館・子育て支援施設など様々な施設や場所で支援をおこなっています。それら「地域」で働く私たちが「いま」と「これから」、どのような作業療法実践を行っている（いく）か、そして「つながり」をどう紡いできたか、その内容を次号で詳しくお伝えしたいと思います。

また、今年度の子ども委員会の研修としては、10月に特別支援学校における外部専門家座学研修を行う予定です。東京都教育委員会より講師をお招きして、東京都における特別支援教育推進の現状と外部専門家事業に関して講義を行い、更に教員として特別支援学校に勤務している委員や外部専門家として特別支援学校に関わっている委員等の実践報告を行う予定です。東京都は他県と比較して非常に多くの作業療法士が特別支援学校に様々な勤務形態で関わっているため、その制度と実践をお伝えしたいと考えています。今後、詳細を広報いたしますので、是非ご参加ください。

車いすでの街歩きを通して、地域の移動支援を地域から発信する

「ウィーログフレンズ 全国一斉車いす街歩き 2022初夏」への参加

自動車運転と移動支援対策委員会 大場 秀樹／永島 匡／山下 桃花

2022年6月11日（土）に一般社団法人WheeLogが開催する「ウィーログフレンズ 全国一斉車いす街歩き 2022初夏」へ参加しました。墨田区の地域包括支援センター「八広はなみずき高齢者支援総合センター」の協力のもと、地域の車いすユーザー、車いすを体験したい方、作業療法士、理学療法士、車いす代理店の総勢15名が参加しました。このイベントに参加した都市は、神奈川県小田原市、兵庫県神戸市、茨城県那珂市、静岡県沼津市、福岡県博多市、東京都墨田区の6か所で、イベントの最初と最後の振り返りではオンラインにて交流を図りました。当委員会から包括にこのイベント参加の企画をして、多機関と協力を得ることで開催できました。

街歩きは、車いすの体験（手動と電動）、バリアフリー調査、参加者同士での気づきの共有の3つから構成されます。街歩きはWheeLogが開発した「WheeLog!アプリ」を活用し、走行したルートやユーザー自身が実際に利用したスポットなどのバリアフリー情報が共有されます。当日は2チームに分かれて、街歩きをしながらミッション（全員が車いすに乗る、地域のお店で昼ごはんを食べる、トイレ・エレベーター等やバリアとなる情報収集）を実行していきます。最後にオンラインで各都市を繋ぎ、街歩きを通じた気づきやまとめの一言を発表しました。

今回の経験を通して、今年の秋ごろに、地域住民の参加を大きく募り、車いすの街歩きイベントを開催する予定です。ご興味ある方は、ホームページよりご連絡ください。

オンライン就労支援事例検討会の報告とお知らせ

就労支援委員会 西村 彩

就労支援委員会では今年度、「オンライン 就労支援事例検討会」を企画しています。この企画は、就労支援委員会のメンバーが事例をあげ、就労支援委員のメンバー同士が支援方法やその考え方について検討をすすめることが特徴です。聴講していただく参加者の方には、委員同士の事例検討をお聞きいただく中で、就労支援のポイントや実際の支援がどのようなものか感じていただければと思います。

今年度は5月20日（金）、8月28日（日）、12月7日（水）の計3回を企画しており、5月20日の第1回目には7名の方にご参加いただきました。事例検討の終了後には参加者の自己紹介や質問コーナーの時間も設け、就労支援についての情報交換を行いました。ご参加いただいた方からは「就労支援委員のメンバーも同じように悩んでいるのだと知れて良かった」「はじめて知る事が多くて勉強になった」「同じ東京都でも地域によって繋ぎ先が違うのだということがわかった」などの感想をいただいています。

普段就労支援に取り組まれている方はもちろん、就労支援に興味のある方も、是非、お気軽にお申し込みください。

【第2回オンライン就労支援事例検討会】

日 時：令和4年8月28日（日）10：30～12：00（開始5分前より接続開始予定）

内 容：・事例検討 ・聴講者を交えての感想・質問などの意見交換 ・質問コーナーなど

定 員：10名

申込期限：令和4年8月26日（金）17：00 まで

問合せ先：就労支援委員会 直通アドレス shuuroushien.tokyo.ot@gmail.com



Vol.6 OT協会の災害対策室の活動・役割と士会との関わりについて

都士会災害対策担当（OT協会災害対策室室員） 門脇 優

日本作業療法士協会では、災害分野に関する部門として、災害対策室が設置されている。全国北海道から熊本まで約13名のOTが所属している。都士会は発災時だけでなく平時から災害対策室との連携を行う必要がある。今回は災害対策室の主な5つの活動・役割について紹介する。

①災害支援研修会の実施、②大規模災害を想定したシミュレーション訓練、③災害支援ボランティア登録、④支援活動に関する広報活動、⑤関連団体との協力

- ①災害支援研修会の実施：年に1回行われ、災害時のOTが取り組んだ報告やPT・保健師など多職種を招いて講演会などを行っている。また、グループワークの機会もあり、他の士会のOTと交流する場面にもなっている。一昨年度よりオンラインにて研修会を実施している。
- ②大規模災害を想定したシミュレーション訓練：年1-2回OT協会が主催し、各都道府県士会が実施している。大規模災害の発生時を想定した安否確認を行い、都道府県士会ごとの実践を元に、課題抽出、情報の共有化を図っている。都士会は都士会員に向けて安否確認を行っている。
- ③災害支援ボランティア登録：災害が発生した際、OT協会として被災地派遣をするためのシステム登録を行っている。実際の活動として、仮設住宅に移行された後、集いの場の創設やその中での取り組みへの関わりなどがある。都内での発災時にも、OT協会と連携して本システム登録者を活用することを検討している。
- ④支援活動に関する広報活動：東日本大震災、熊本地震、平成28年台風10号（岩手県岩泉町）のそれぞれの災害発生時において、OTが関わってきた歩みを記録した資料（復興のあゆみ）で、英語翻訳版もHPに掲載されている。各災害時の実際の活動内容だけでなく、災害発生時のOTが担える役割についても経験を通じて報告されている。
- ⑤関連団体との協力：日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）や公益財団法人国際医療技術財団（JIMTEF）などとの協力を行っている。JRATは東日本大震災（このときは前身団体）より活動を開始した災害支援団体で、熊本地震や東日本豪雨災害など大規模な災害だけでなく、2019年台風15号の発災時、千葉県での活動や熱海市伊豆山土石流災害の静岡県での活動など近年の局地的災害も活動している。JIMTEFは、国立病院機構災害医療センター協力の元で災害医療コーディネーター研修を実施している。この研修受講が、JRATでの派遣要件の1つとなっており、都士会の災害対策担当者において本研修会の受講者を増やしている。

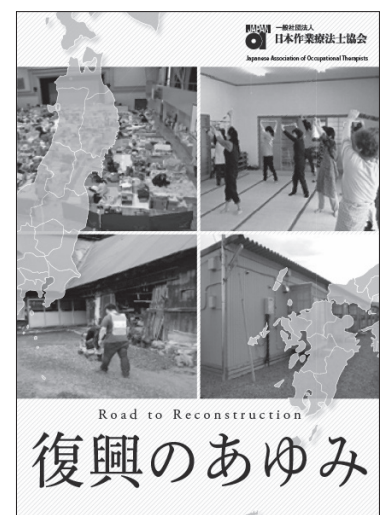
その他、発災時には被災都道府県と協力し会員状況や被災状況の情報共有、災害発生時の被災都道府県士会への支援金支給、会費免除などの取り組みを行っているため、都内で発災した際には都士会は速やかにOT協会と連携していく。

各都道府県士会は、災害対策室と連携を図りながら、士会ごとの取り組みも行っている。PT・ST士会など多職種との連携、行政との連携、士会ごとの研修会や訓練を行っているところもある。

それぞれの活動や取り組みに興味がありましたら、HPなどをご確認いただき、ご連絡いただければと思います。平時からの備えを一緒に取り組んでいきましょう！

参考資料：復興のあゆみ

<https://www.jaot.or.jp/files/page/saigai/fukkounoayumi-japanese.pdf>



ブロック活動のお知らせ

北多摩ブロック（武蔵野市、三鷹市、調布市、狛江市、小金井市、府中市、清瀬市、東久留米市、西東京市、東村山市、小平市、国分寺市、国立市、立川市、昭島市、東大和市、武蔵村山市）

新妻 雅章（吉祥寺南病院）

北多摩ブロックで広報活動を担当している新妻雅章と申します。今年度は北多摩ブロック内にある17の市に所属する作業療法士の連携を強めるべく、さまざまな活動に挑戦していきたいと考えております。新たな取り組みとして、SLACKというチームコミュニケーションツールを導入致しました。顔を合わせて集まる機会が減ってきてしまっている中で、ブロック内の作業療法士が、気軽に、ざっくばらんに交流できる場を作りたい…。そういった想いで開設させていただきます。SLACKでは、研修会の発信、協会活動の報告、悩み相談、雑談などなど…、誰でも閲覧・発信ができる内容にしたいと考えております。この新たな取り組みが、北多摩ブロックの作業療法士の交流の場になれば幸いです。

☆北多摩OTチャンネル ～ツナガルバ～

ブロック内に限らず、多くの作業療法士の参加登録をお待ちしております。

メールアドレス：ot.kitatama@gmail.com

※お名前、所属施設を記載の上、上記アドレスにメールを送ってください。

後日、SLACKの招待メールを返信させていただきます。



西多摩・南多摩ブロック（瑞穂町、福生市、羽村市、あきる野市、青梅市、日の出町、奥多摩町、桧原村、八王子市、日野市、多摩市、稲城市、町田市）

今泉 幸子

西多摩・南多摩ブロックでは、第18回 東京都作業療法学会を開催させていただきました。ご発表およびご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。下半期はやや燃え尽きている感はあるかと思いますが、引き続きブロック内で繋がれる活動に取り組んでいきたいと思っています。会議も研修会もオンラインが常となっている昨今、コロナ禍が落ち着き、また安心して集合研修や懇親会ができる日が待ち遠しいですネ。

☆ブロック活動へのご意見・ご要望・ご質問はこちらまで ⇒ swtamaot@gmail.com

区西部・西南部ブロック（新宿区、中野区、杉並区、目黒区、渋谷区、世田谷区）

齊藤 公太

こんにちは、西部西南部ブロック長の齊藤です。前回、今年度の予定を伝えなかったのが改めて、、、。今年度西部西南部ではMTDLP研修や認知症アップデート研修、区支部研修など、様々なイベントを用意しています。区支部研修では、前回は就労支援のコトを経験未経験込みで話し合う非常に有意義な時間でした。びっくりしたのは中野区支部研修に近畿地方の方が参加してくれたこと！オンラインのメリットですね！これからもこういった作業療法士らしい多様な職域の研修をしていきたいです。人と人が繋がりが合う、作業療法士の根っこだと思います。口下手でも、コミュ症でも構いません。沢山の人が繋がれる機会をブロックで作っていききたいですね。なんでも相談実施しています。

西部・西南部ブロックの方はこちらにどうぞ ⇒ seibu.seinanbu.ot@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

(港区、千代田区、文京区、台東区、中央区、品川区、大田区、島しょ部)

阿部 元彦

ブロック研修の第一弾としまして、7月24日の10時から12時に「当事者とその家族の語りから学ぶ社会復帰までの道のり」という勉強会を開催いたします。講師に当事者とその家族をお呼びして、急性期、回復期、生活期、そして、社会復帰までの過程で「困った」と感じたことを中心に語っていただく予定となっております。皆様のご参加をお待ちしています!!! (詳しくは都士会HPをご覧ください。) 当ブロックは一緒にブロック活動を盛り上げてくださる方を募集しております。ブロック活動は人の繋がり、作業療法についての考えを深め広げられる環境が整っています。千代田区・中央区・文京区・台東区・品川区・港区・大田区・島しょ部でお勤めの皆さんで活動に興味のある方はメールをください。是非、一緒に活動しましょう!!!

連絡先: ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

区西北部ブロック (練馬区、板橋区、北区、豊島区)**清水 隆志**

7月からブロック長を引継ぎました長汐病院に所属しています清水隆志と申します。長汐病院はケアミックス病院で、療養病棟を担当しております。日々患者様と向き合っていく中で、作業療法、業務、職種間とのコミュニケーションなどで悩む場面は少なくないです。私の場合、このような悩み事が出てくる時は、自身の狭い視野で考えていることが多いので、同僚や他施設の作業療法士と話し合う事にしていきます。ブロック活動においても、多くの作業療法士が情報交換や意見交換がおこなえる機会を大事にしていきたいと思っています。また技術の学びだけでなく、同じ目標・目的を持った同士との繋がりも必要とされているのではないかと感じています。今後も、皆様と情報を共有し、より学び、繋がりやすいブロックを目指していきたいと思っています。

区東部・東北部ブロック (墨田区、江戸川区、江東区、足立区、葛飾区、荒川区)**大瀧 直人 (いずみ記念病院)**

今年度より、東京都リハビリテーション病院の齋藤様からブロック長のバトンを受け取りました、足立区にありますいずみ記念病院の大瀧と申します。ブロック活動は、現在までで7年間行っております。同じ地域の方のみならず、様々なOTの方々と交流させていただき自分のOTとしての知見が広がりました。今後は、今まで齋藤様が構築された土台のもと、新しいことにもチャレンジしていきたいと考えています。今年度の研修会の予定は、9月頃に各領域のOTから「家屋調査のみるポイント」について講演してもらうことや2023年2月頃に「クライアントに対するコミュニケーション方法」についての講演を企画しています。奮って御参加ください。

ブロック活動に興味がある方は下記までご連絡お待ちしております。よろしく申し上げます。

連絡先: 大瀧 直人 メールアドレス: ot.naoto@gmail.com

自治体職員や包括支援センター職員に向けて作業療法を紹介しました！

～作業療法士の紹介動画 無料公開のお知らせ～

地域包括ケア対策委員会 委員長 金澤 均

令和3年度より東京都が主体となり「自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議アドバイザー養成研修」を行っています。その中で、自治体職員・包括支援センター職員向けに地域ケア個別会議での作業療法士活用について講義させていただきました。本講義で使用した動画について、このたび東京都作業療法士会より無料で公開します。

内容は、1. 作業療法士の専門性について理解する。 2. 作業療法士から見た自立支援の方向性を知る。 3. 地域ケア個別会議における作業療法士の活用について理解する。 4. 東京都作業療法士会（職能団体）による地域ケア個別会議に向けた人材育成状況 5. 助言者の選定（リクルート）・依頼方法等について 6. 相談窓口・地域ケア個別会議における作業療法士による助言事例として構成されております。

会員の皆様におかれましては、是非一度自治体職員に対してどのような紹介を行ったかについてご理解いただければと思っています。また、作業療法をなるべく分かりやすく説明したつもりですので、養成校での教育場面や新人教育、病院施設等での研修や勉強会などにもご活用いただけるかとも思います。対象は生活期領域に限らず様々な領域の方にご視聴いただける内容と思います。



是非一度ご視聴のほど、よろしくお願ひいたします。

<https://youtu.be/Wh5LMcMngkA>

編集後記

ニュースがお手元に届くころには梅雨が明け夏真っ盛りでしょうか。6月某日、感染状況も落ち着いたので、広報部ではコロナ禍以来、2年以上ぶりに新宿の事務局とオンラインのハイブリットでの会議を行いました。この間、入部された方は対面で会うのは初めてでした。オンライン会議や研修は便利ですが、同じ時間を共有しているという感覚はやや薄れるのではないかと感じています。

少し話はずれますが、私が所属する国立病院機能の関東信越ブロックで研修会を企画中なのですが、新潟など地方の方にとってはいまだに県外に出ることは難しかったり、移動の手間や費用（研修会は自己研鑽なので自己負担）を考えるとオンラインの方がありがたい、という意見は分かるのですが、東京近郊所属の方も、オンラインの便利さを知って、実地で行うメリットはあまりない、と言われてしまいました。（一人でやるのではなく複数人が集まっておこなう）勉強会はある程度の時間、同じ空間で同じことを学び、そこで創発されるものにより考え方が変容していくプロセスだと私は思っているもので、少し悶々としています。ただ、働き方改革が言われている昨今、休日にお金と時間を割いて勉強会に参加するのがほとんど当たり前の医療従事者にとって、少しの時間の節約という面はあるのか、など色々考えると切りがありません。また皆さんの意見をお聞きしたいです。 広報部部長 水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◆東京都作業療法士会 事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-4-1 新宿Qフラットビル501号室

TEL：03-6380-4681 FAX：03-6380-4684

◆東京都作業療法士会ホームページ <http://tokyo-ot.com/>

◆東京都作業療法士会ホームページ窓口 postmaster@tokyo-ot.com

※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。

ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願ひいたします。